

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Wish(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和8年3月1日 ～ 令和8年3月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日 ～ 令和8年3月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別課題を意識した取り組みから集団活動への発展させた活動の計画を立てていること。	・児童担当職員を配置してできるかぎりモニタリング会議に出席していること。他事業所での評価や関わり方を学び、サービスの流れや仕組みを知る機会を得るようにしている。 ・土曜日開所時は、個別の困り感や、日常生活関連動作に焦点を充て評価を行う機会を持っていること。 年長児の受け入れに対しては小学校を見据えた関りや対応を早	・職員個々が5領域や、放課後等デイサービスガイドラインの4つの基本活動をより意識できる仕組み作り。 ・外部や関連機関、地域を意識した活動を展開するためのの情報収集や手法を検討していくこと。
2	「将来」を意識した細かな関り。 (対人スキル・振る舞い・日常生活関連動作の取得・修正)	・現在の状況や課題の他、日々の振る舞いについて細かなアセスメントを実施し、その場限りの対応でなく通所児童にとっての成長や振る舞いの修正を図る関りを粘り強く行っている。 ・毎日の申し送りの時間を大事にしている。(職員自身がどのような気持ちや感情を抱いたのかを表出する場の確保も含む)	・発達段階や年齢に応じた客観的な指標や各事柄における当事業所としてのと対応方針をもう少し具体的に設定し職員が共有すること。その方針を打ち出すためのコミュニケーションの場の確保。 ・方針を持ちつつ、多様な価値観を受け入れたり、選択肢に幅を持たせられる支援手法を職員自ら学ぶ機会の確保。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流(放課後等デイサービス・学童クラブ・児童館)との交流機会の少なさ。	実績が少なくスケジュールや活動の組み立てをイメージすることが不十分。	・事業所連絡会への積極的な参加と、公的機関の開催するイベントへの参加を実施しながら、横のつながりを積極的に図っていくこと。 ・送迎時や各種会議時、積極的な情報共有と発信を行う姿勢を持つこと。
2	保護者同士の交流や保護者も参加できる研修の機会の少なさ。	保護者会を開催することのみの体制作りにとどまっており、保護者間での交流への展開についての検討がされていない。	保護者の皆さんがどのような形での開催なら参加しやすい機会となるのかをまず検討したり、他事業所の事例を情報収集していく。まずは情報提供の機会の増大を図ることから取り組んでいきたい。
3	安全管理マニュアルや訓練実施が周知不足であること。	総合訓練は実施していますが、防犯訓練についてはSST活動のみの実施となっているため訓練としての実施はない。また各保護者様に対してマニュアルの周知は行っていない。日頃からの防災意識や事業所としての対応を知ってもらう機会を提供できていないこと。	・地域の防災訓練への参加機会を得たり、他事業所との合同訓練、講師招聘での訓練実施が行えないかを検討していきたい。 ・周知方法の再検討(媒体・頻度等)